

2024年度 織田製菓専門学校 自己評価報告書

作成日 2025年4月1日

はじめに

2024年度の事業計画に対して、その進捗や達成度を確認する観点にて自己点検評価を実施した。
ただし、事業計画の内容の多くは単年度、短期的なものではなく、複数年に亘る長期的な視点での目標、計画である場合が多い。
本学においても、普遍的な課題であったり達成基準の無い目標も多く設定されている。それらに関しては到達という観点ではなく、取り組みに対して真摯であったかどうかを評価の軸としている。

※尚、評価は4～1の数値にて表す。適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切・未実施…1

長期的に本学の教育理念に沿った理想的な学校とするべく、その過程における当年度の1歩について以下に評価を報告する。

学校の理念と教育目標

理念 学生自らが学ぶ姿勢を引き出す。

目標 製菓に関する技術と知識の習得及び社会人としての常識を兼ね備えた人材を育てる。

重点的に取り組んだ目標及び計画等

・毎日の実習による技術の向上と、製造販売実習で商品として価値のあるものを作り販売する責任と喜びを学び、そこからパティシエの魅力を感じられるよう取り組んだ。

1. 教育理念・目標

評価項目	評価	評価内容	課題
理念・目標・育成人材像は、定められているか。	4	理念等はWEBサイト、学生のしおり等を通じて公表し、教職員、学生、保護者等に周知されている。	時代や社会情勢の変化も鑑みながら必要により改訂を検討していく必要がある。
学校における職業教育の特色が明確になっているか。	4	学生に対しオリエンテーションで説明し、周知している。	業界で求められる人材像の変化をとらえながら、職業教育に必要な内容を検討していく。
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	現役のパティシエ・ブーランジェなどを講師に迎え、現場で役立つ授業を展開している。	少しずつ変化する業界の環境を講師に確認しながら、それに合わせ人材育成に取り組んでいきたい。
学校の教育理念やポリシーは学内外に広く公表されているか。	4	3つのポリシーはWEBサイトにて公開している。	内容を毎年アップデートしていくことが肝要である。
コメント 特になし			

2. 学校運営

評価項目	評価	評価内容	課題
教育理念・目標に沿った運営方針が定められているか。	4	教育理念・目標に沿った運営をしている。	引き続き時代に沿った教育理念への見直しも必要。
学校関係者評価で得た意見を有効に活用できたか。	4	引き続き3つのポリシーの広い周知を目的とし、WEBサイトにて公開している。	いただいたご意見に関しては可能なものから積極的に検討する姿勢を続けていく。
カリキュラムや学習環境が正しく機能しているか検証・見直し、修正されたか。	4	外的環境要因に左右されることなくカリキュラムなどは正規に実行していた。	今後もこの姿勢を継続していく。
選択科目について、時代に合わせた内容に変化させ充実を図ったか。	4	改訂の結果、わかりやすくなったと学生から好評で受講者も増えた。	カリキュラムにのっとり今後も適切に指導したい。
情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	クラウドワークフローシステム等が整備されている。	学内システムを使用しての申請書類提出や稟議提出などは問題なく機能している。
コメント 12月・1月にインフルエンザの流行はあったが大きな問題とならず、学校行事などは全て無事に済み、1、2年生間の交流も順調であった。			

3. 教育活動

評価項目	評価	評価内容	課題
教育理念に沿ったカリキュラムになっているか。	4	教育理念を基本としたカリキュラム編成がなされている。	今後もこの姿勢を継続していく。
教育カリキュラムは体系的に編成されているか。	4	毎年修正を加えながら体系的にカリキュラムが編成されている。	今後もこの姿勢を継続していく。
キャリア教育・実践的な職業教育の視点で、カリキュラムや教育方法の見直しがなされているか。	4	講師からのアドバイスをもとに実習内容や授業の進め方を検討し、実践した。	今後もこの姿勢を継続していく。
実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか。	4	製造販売実習を通じて、現場の大量生産の方法や商品の在り方、接客も行っている。	今後もこの姿勢を継続していく。
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	成績評価・単位認定の基準は学則に記載されており、明確になっている。成績表などを学生に情報共有している。	特になし。
教員の研修・自己啓発は促進できたか。	3	今年度は業務が増えたためコンクール作品を考えたり、セミナーに参加する機会を逸してしまいました。	来年度は若手からはコンクールに出展したい意向という申し出が多くあり、学校側で協力体制を敷きたいと考えている。
コメント 今年度から1年次からの製造販売実習が始まり、「パティシエ」への理解と意識づけなどが強化された。			

4. 学修成果

評価項目	評価	評価内容	課題
生活支援の充実化は図れたか。	4	奨学金制度は要項などが届くたびに、学生達に紹介した。	特になし。
教育支援の充実化は図れたか。	4	実習指導の教員は授業中、終了時に質問があるかを学生に尋ね対応。また、希望者には自主トレーニング時間を設定して実習力強化を図った。	学生がより学びやすい環境作りに努める。
就職支援の充実化は図れたか。	4	今年度も求人は安定しており、学生の意欲も高かったため就職希望者の内定率は100%となった。	留学生の日本での就職は相変わらず厳しい状況だが、学校側でできる最大限のサポートは引き続き行う。
コメント 特になし。			

5. 学生支援

評価項目	評価	評価内容	課題
退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか。	2	昨年度、退学者はいなかったが今年は2名。ただ、入学前から問題のある留学生で仕方のないところはある。	留学生の日本語力と動機をどのように判断するか。日本人の場合は経済的困窮が理由の多くとなるので公的奨学金をすすめる。
学生のメンタルヘルス対応は積極的に取り組めたか。	3	専用のメンタルヘルス相談窓口を設けている。また、提携機関のチラシ配布および関連機関からのポスター掲示を行った。	各サポートがどれほど学生に利用されているのかを把握する術を検討する。
卒業生への支援体制はあるか。	4	卒業生に対しても転職の相談や求人情報の提供を行っている。	特になし。
家庭との連携は適切だったか。	4	遅刻、欠席が多く出席不足で卒業、進級が出来なくならないように、早い段階から保護者に連絡。状況を伝え家庭からのサポート依頼を行った。	この姿勢を継続していく。
コメント 特になし。			

6. 教育環境

評価項目	評価	評価内容	課題
卒業生・在校生・学校間のネットワーク構築への取り組みについて進捗・改善は見られたか。	4	WEBを活用した就職・転職支援を行っており、在校生卒業生問わず利用可能となっている。また、卒業生が勤務している企業やお店の求人を受け入れている。	特になし。

施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	新実習棟の完成から数年が経つが教員、学生、全員の努力で問題なく使用できている。防災も水、食糧など備蓄品の確保もされている。	特になし。
コメント 特になし。			

7. 学生の受入れ募集

評価項目	評価	評価内容	課題
オープンキャンパス(OC)参加者の増加は達成できたか。	1	大幅に減った昨年度から、さらに微減の状態。	資料請求からのオープンキャンパス参加者数の増加が課題である。
OCからの取り込み率は向上できたか。	3	取り込み率は向上した。	さらに高めるために他校との差別化が必要そうである。
OC時の参加者対応スキルの向上は図れたか。	4	実習内容のシミュレーションを必ず行い、教員間で差がないように校舎見学の練習を繰り返した。	説明に慣れてマンネリ化しないよう常に新しい話題や学校の様子を加えるなどブラッシュアップを心掛ける。
OCの結果等の分析や、コース内容のブラッシュアップ等について学校と広報とで十分な意見交換ができたか。	3	今年も作ったお菓子を持ち帰りたいという声が多いということで、お土産になるような体験メニューを中心にした。	持ち帰りの場合は安全性と衛生面に配慮しなければならないのでメニューがある程度限定される。
学生募集における学校の訴求ポイントについて広報と協議の上で決められたか。	3	お互いに意見を交わす中で魅力となるポイントを共有し、ガイダンス等での広報に役立てた。	客観的なデータを用いたうえで広報とは協議を重ねる必要があると考える。
広報物の訴求の一貫性を図れたか。	3	毎月送るDMIについても入学案内と訴求内容を一貫させている。	年度の途中であっても適宜広報物に関する意見交換を広報側と図りたい。
広報物の制作にあたり、学校と広報とで意見交換が図られたか。	2	話し合う必要がある際には、広報担当者が職員室に訪れ、情報共有を行っている。	タイトなスケジュールで動かざるを得ないこともあるので、もう少し余裕を持ったスケジュール調整を互いに心がけたい。
広報担当スタッフとの連携を強化できたか。	4	OCの参加者の進路、今後の動向、志望度合いなど情報の共有は出来ている。	もっと学校の魅力が発信できるように話し合い共有してゆきたい。
SNS等、学校の認知PRIは適切に行えたか。	4	インスタグラムをよく活用し、外部の人々に学校を知ってもらえるように努めた。	SNSをより活用し、認知の幅をさらに広げていきたい。
コメント 製菓分野への進学希望者が今年も増えない中で、大学進学率の増加や有名校の新校舎建設など、本校への入学を阻害する要因が重なり今年も苦戦となった。OCの取り込み率は上がったので製菓希望の参加者をいかに増やすかがポイントとなる。			

8. 財務

評価項目	評価	評価内容	課題
経営感覚の教職員間での共有は図れたか。	4	厳しい経済状況であることを全員が認識していた。在校生を減らさず(退学者を出さない)、食材のロス、光熱費を減らし経費を削減する目標で1年間取り組んできた。	まだ続く様々な価格高騰の中、教育の質を落とさないように努めていく努力を継続していく。
会計監査は適切に行われているか。	4	監査法人と契約し、公認会計士により適切に行われている。	特に無し
コメント 特になし。			

9. 法令等の遵守

評価項目	評価	評価内容	課題
コンプライアンス意識を再確認できたか。	4	法人に「コンプライアンス規程」を明文化している段階にあり、策定後に教職員間に意識の共有した。	今後も社会情勢に合わせ、明文化した内容を見直し、必要に応じて改訂していく。
自己評価の結果を公開しているか	4	公式WEBサイトにて適切に公開している。	引き続き適切な情報公開に努めたい。
コメント 特になし。			

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価	評価内容	課題
地域や自治体と連携した企画を積極的に実施しているか。	4	学内併設店舗にて一般向けの販売を行っている。また、同店舗が中野区食品ロス削減協力店に登録された。引き続き中野アールブリュット展、学園祭でのJR駅前特別販売などを行った。	今後も機会があれば参加していきたい。
コメント 私たちの認識は「地域の方々に学生が温かく育てていただいている」というものであるが、地域貢献はこれからも教育目標の1つとして設定しておきたい。			

11.国際交流

評価項目	評価	評価内容	課題
留学生受入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか。	3	在校中、適宜呼び出しをして状況を確認している。	学校生活を左右するのは、やはり日本語力であるが、能力が低くても入学できる状況であり、その点が受け入れ側の課題である。
コメント 特になし。			

おわりに

今年度も就職希望者の内定率が100%であったことは良い実績となった。就職に対する意識も他校より強いようで、内定先からも期待の声がよせられていて卒業生の活躍を期待したい。

また、アールブリュット展、中野レンガ坂商店会との地域密着のコラボレーション企画で学生が考案したケーキを商品化するなど、新しい授業の形を考える土台を作った年度でもあった。

オープンキャンパスについては、昨年度より取り込み率は向上したので1つの目標は達成したが、参加者が減ったため実際には入学者が微減になっている。

資料請求からのオープンキャンパス参加者数増加は引き続きの課題であり、学校の魅力をいかに伝え足を運んでもらうかは広報と相談しながら、学校自身からも発信していきたい。